



関山燃料店

5K feat.J

板垣圭一郎 (Keiichiro Itagaki)
市田圭佑 (Keisuke Ichida)
裏山咲希 (Saki Urayama)
宇和川準 (Jun Uwagawa)
田中希紘 (Kihiro Tanaka)
南雲悠見 (Yuken Nagumo)

調査経緯

我々は日常に潜む建物の違和感を探し、その違和感がどこからくるものなのかを調査することで建築を見る目を養うことを目的に活動を始めた。その結果八王子市にある関山燃料店を見つけ出した。

関山燃料店が持つ違和感

- ・ 建物が道に対して傾いて建っているところ。
- ・ 建物正面の引き戸から床下の断面が剥き出しになっていたところ。



八王子の変遷と関山燃料店

八王子は明治時代ごろから生糸や絹織物が盛んにおこなわれてきた。なぜならそれらの商業には豊富な水が必要となり、近くにある浅川の水を活用できたからである。

生糸の生産には工場で使う水のほかに蚕の餌となる桑が必要であった。その桑畑は明治時代頻繁に増水していた浅川の水量の調整のために周辺の土地を畑にすることで確保していた。同時に用水路も必要となり関山燃料店はその用水路の傾斜に沿うようにして建てられた。

一方生糸を生産する工場の燃料は周辺の燃料店から得ていて、関山燃料店もその一つであった。関山燃料店はリアカーで運びながら販売していた。使われる燃料が木炭や石炭からプロパンガスに変わると周辺の燃料店は衰退、規模の縮小がされた。商店街が衰退し、工場で作られた糸の出荷の機会が減ると工場の数も減り、必要とされる燃料がさらに減少したため燃料店は次々と消えていき、関山燃料店も燃料店重視の建物から住宅向けのものへと変わっていった。

絹産業と街の関わり

●が桑畑、×が工場
 1944~1954
 1965~1968
 1975~

関山燃料店

製糸工場に燃料を提供

邸宅

お金持ちの人が一晩泊まる場所。

商店街

女工さん達や遊郭帰りの人がご飯を食べていた場所。生活がここで完結した。

遊郭

絹で儲けた人が遊んでいた場所

談合所

絹は当時一回織れば一万円稼げるほど高価なもの。絹の値段を決めていた場所。



古地図より…

1944年～1954年

工場よりも桑畑が多い。生糸の生産が盛ん。

1965年～1968年

工場が増えて、桑畑が減少。生糸の生産量が少なくなっていく。
工場は現在の八王子駅周辺に多く存在した。

関山燃料店より北側は桑畑がない。また川から離れているため工場もない。かわりに邸宅が建てられ富豪たちの宿となった。

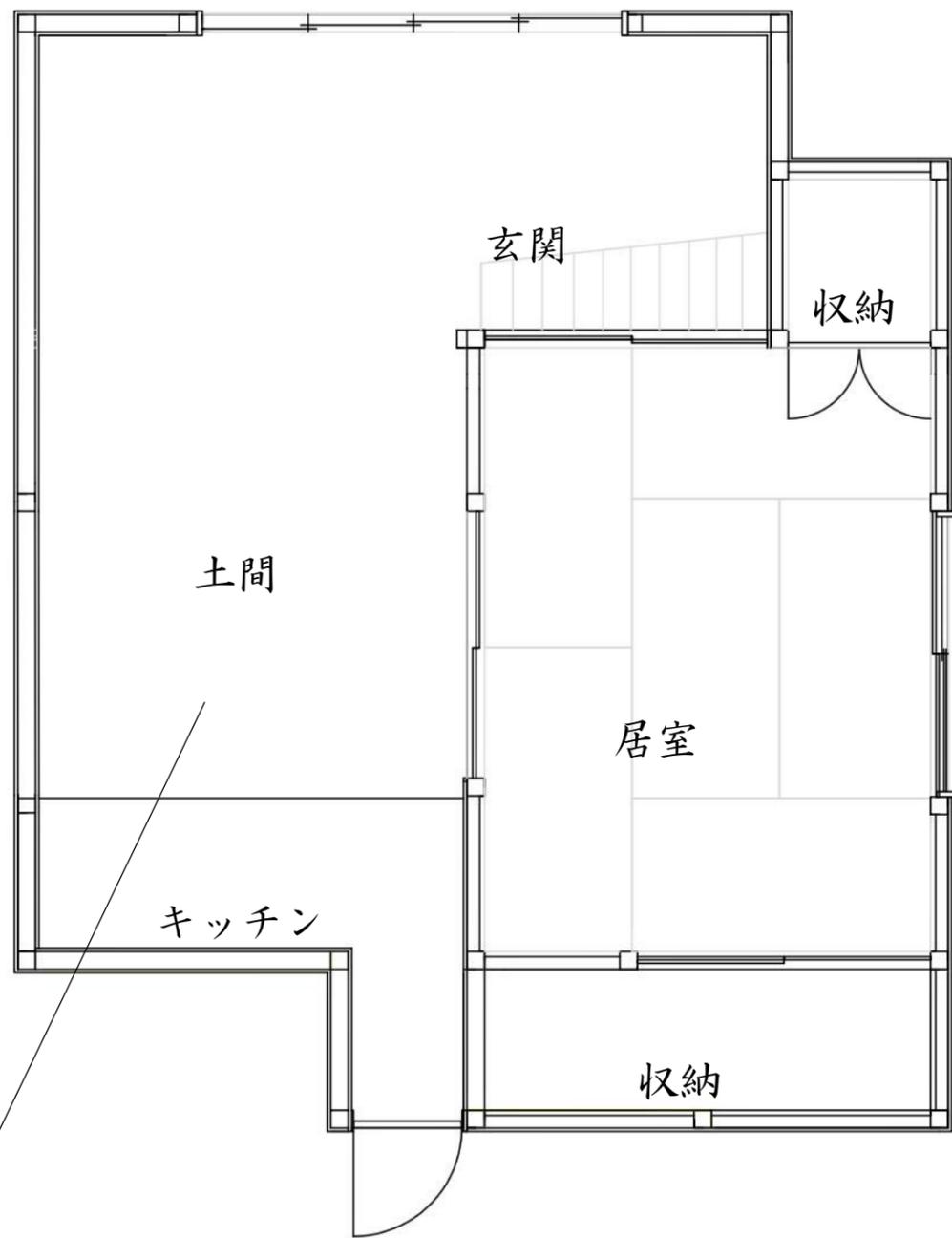
1975年～

それまであった桑畑が完全に消える。工場は数を減らしてはいるが残っている。残っている工場は川の近く、もしくは八王子駅前周辺に位置する。

実測から分かったこと

- ・ 建物は昭和30年に魚屋さんから買い取った。
- ・ 当初の住宅形態は6畳一間に土間。
- ・ 昭和40年に土間のうち4畳半を居住空間にした。
- ・ 昭和45年に基礎を残して建て替えが行われる。
- ・ 燃料の保管場所の確保で倉庫が作られる。
- ・ 土間の空間が不要になり、居住空間にするためユニットが埋め込まれる。

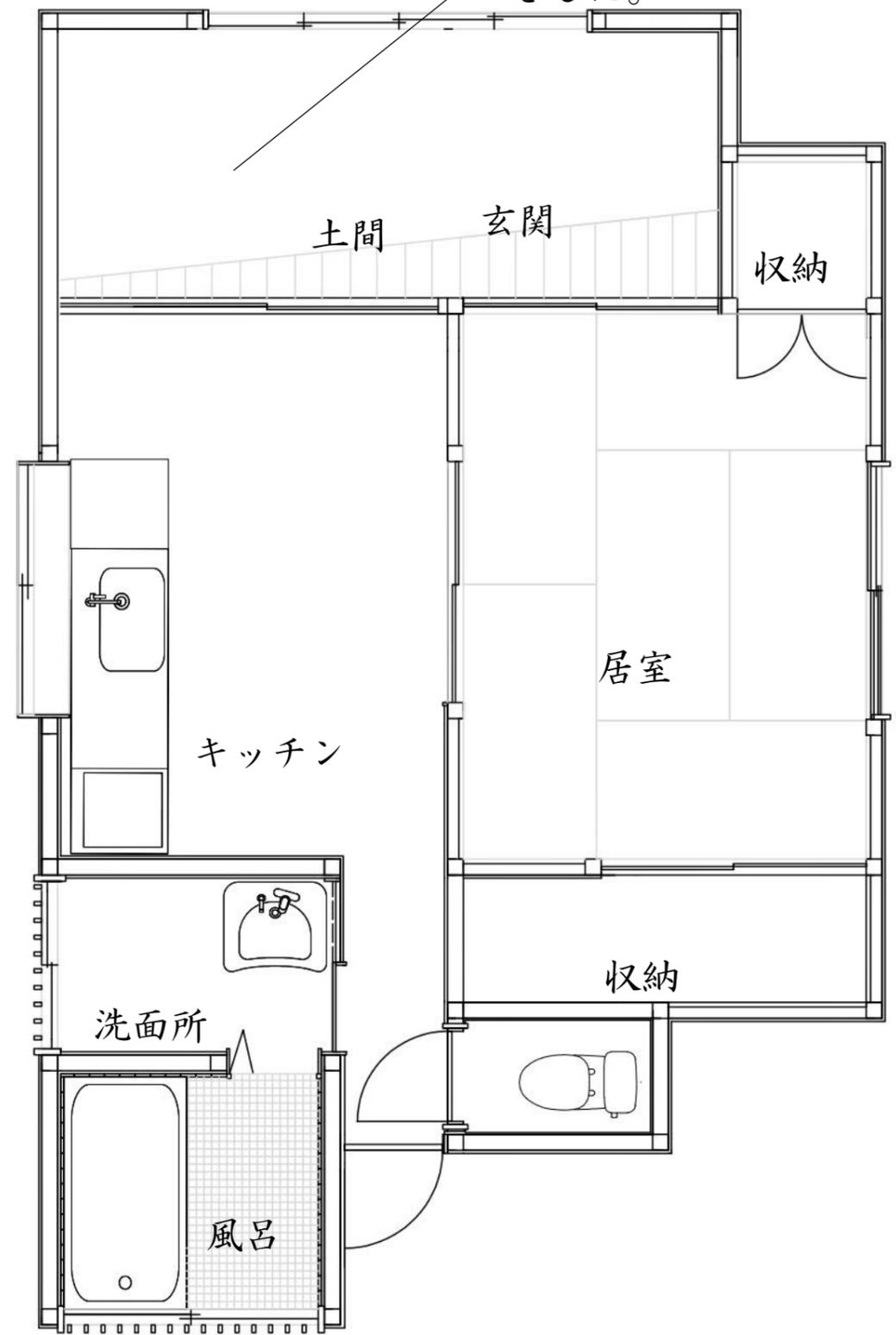
S30年 平面図



魚屋さんが使う予定だった建物を買い取ったため広い土間がある。この場所で木炭や練炭などの燃料を売っていた。

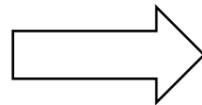
図面に記載はないがこのあたりに五右衛門風呂と汲み取り式のトイレが設けられた

S40年 平面図

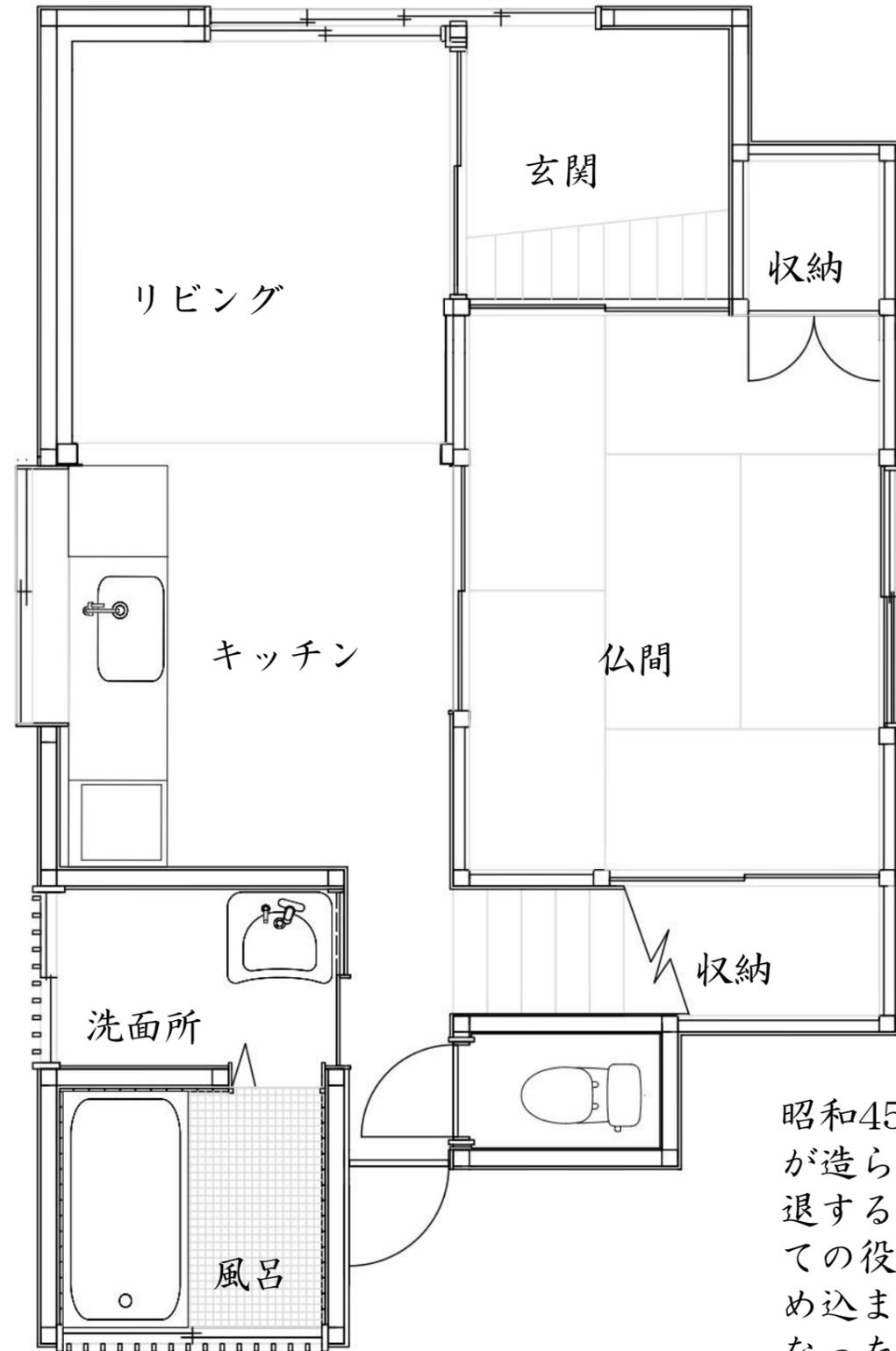


小さくなった土間で商売をした。

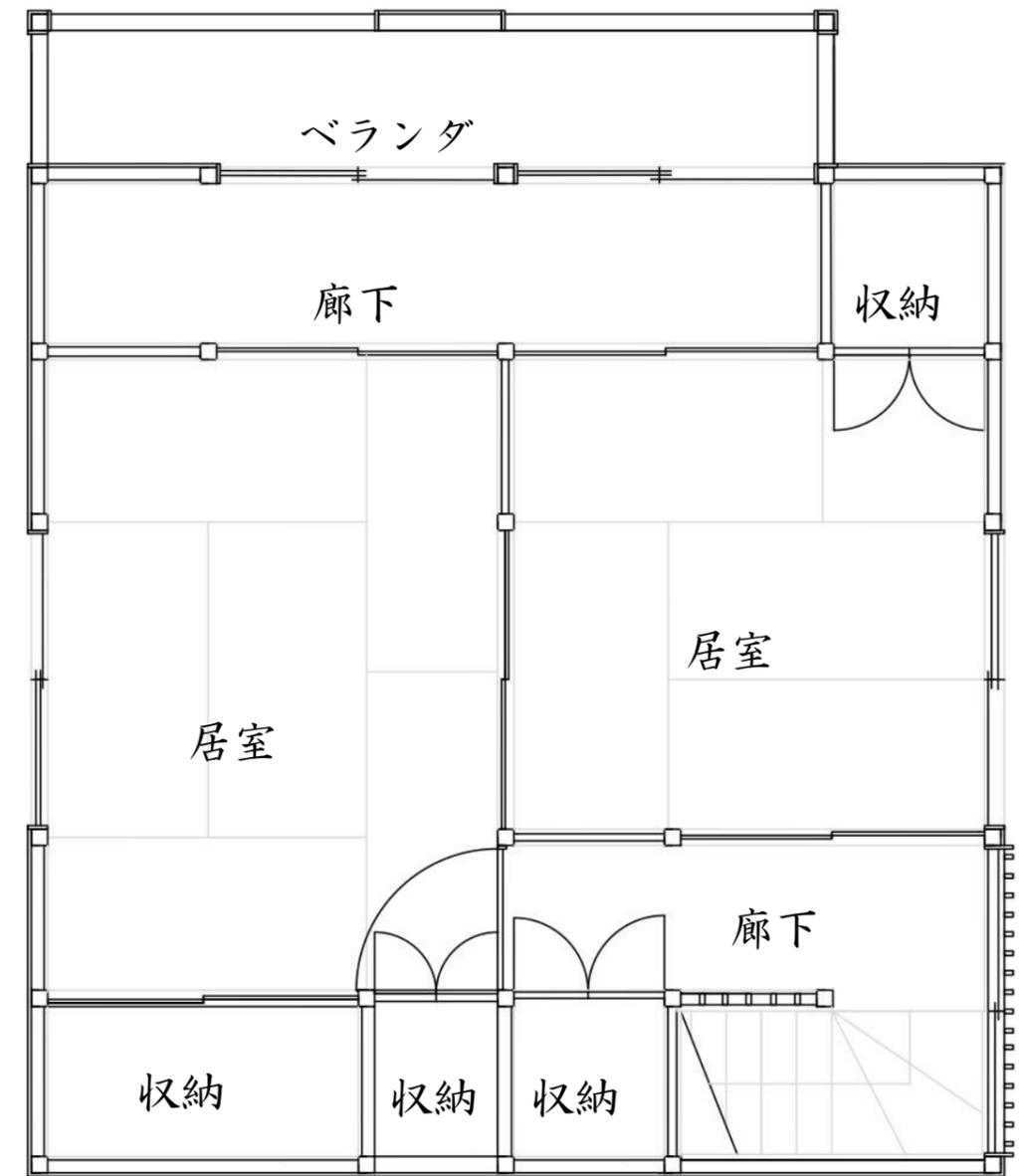
手狭になり土間に四畳半を追加



現在 1/40 1階平面図



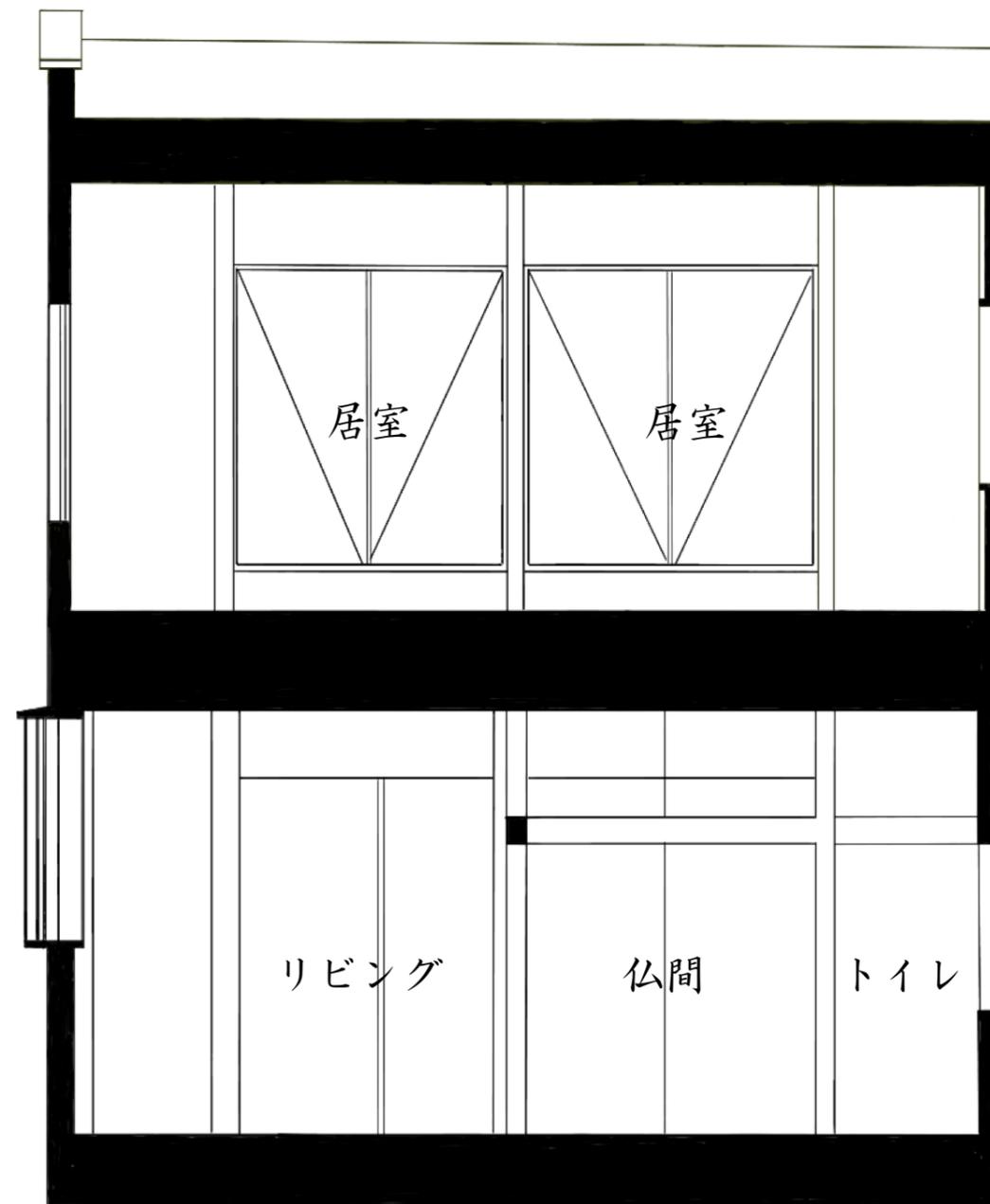
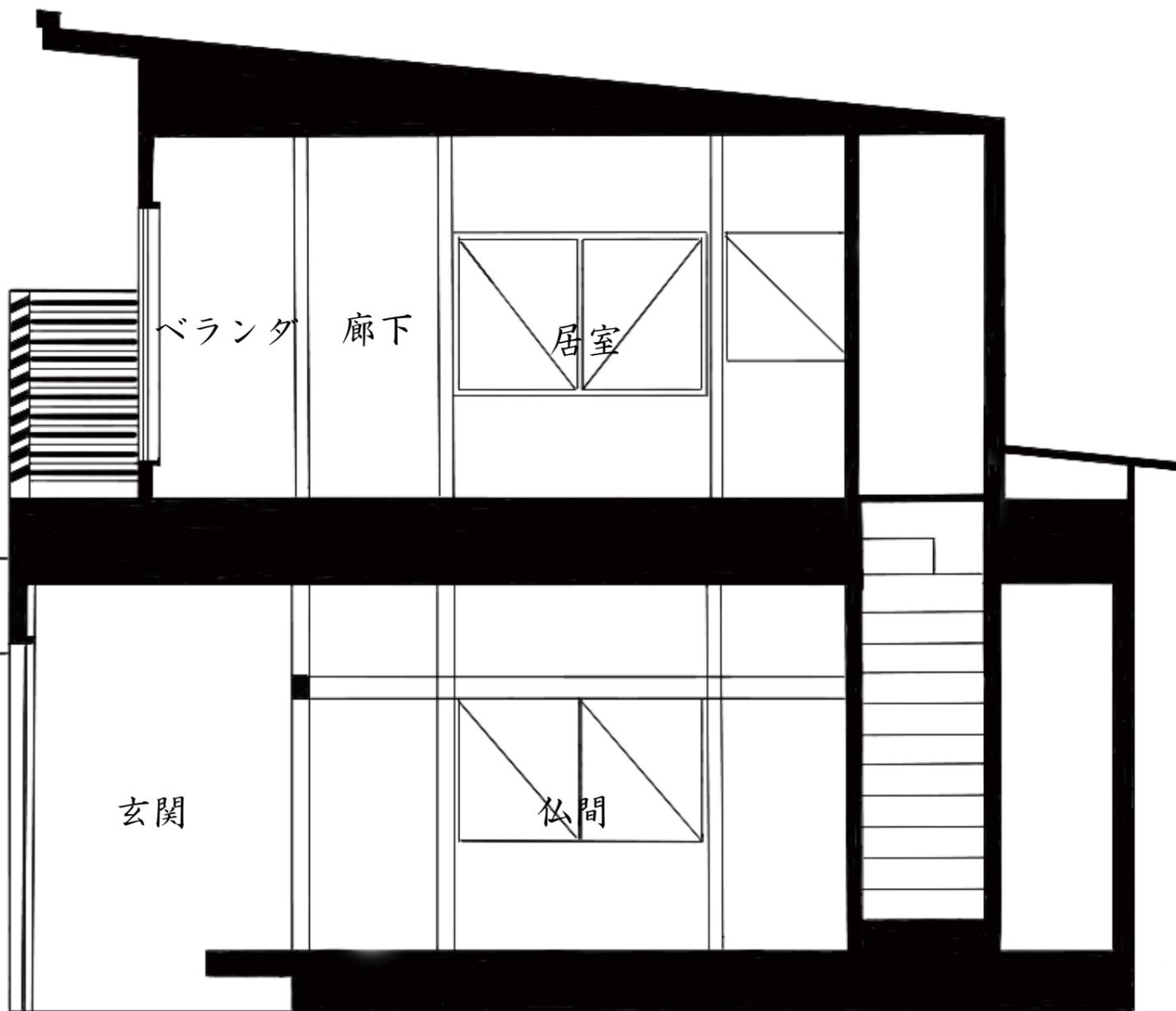
現在 1/40 2階平面図



昭和45年に基礎を残して建て替えが行われた。西側に倉庫が造られると土間はその機能を失った。その後絹産業が衰退するとともに建物自体は燃料店としての役割から家としての役割が強くなっていった。土間の部分にユニットがはめ込まれリビングが造られその後二階が増築され今の形になった。



1/40断面図

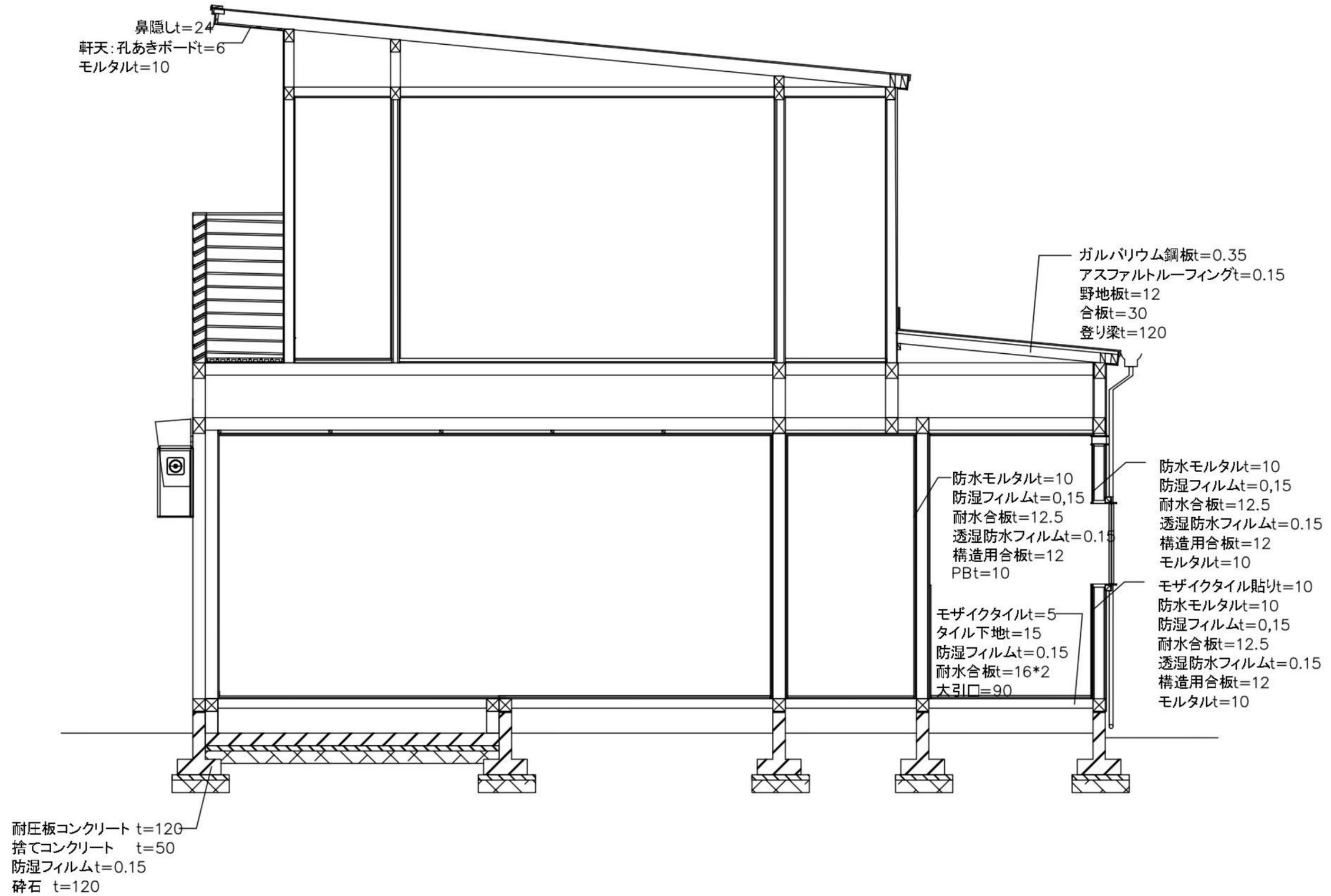


0 1000 3000 5000 8000 (mm)

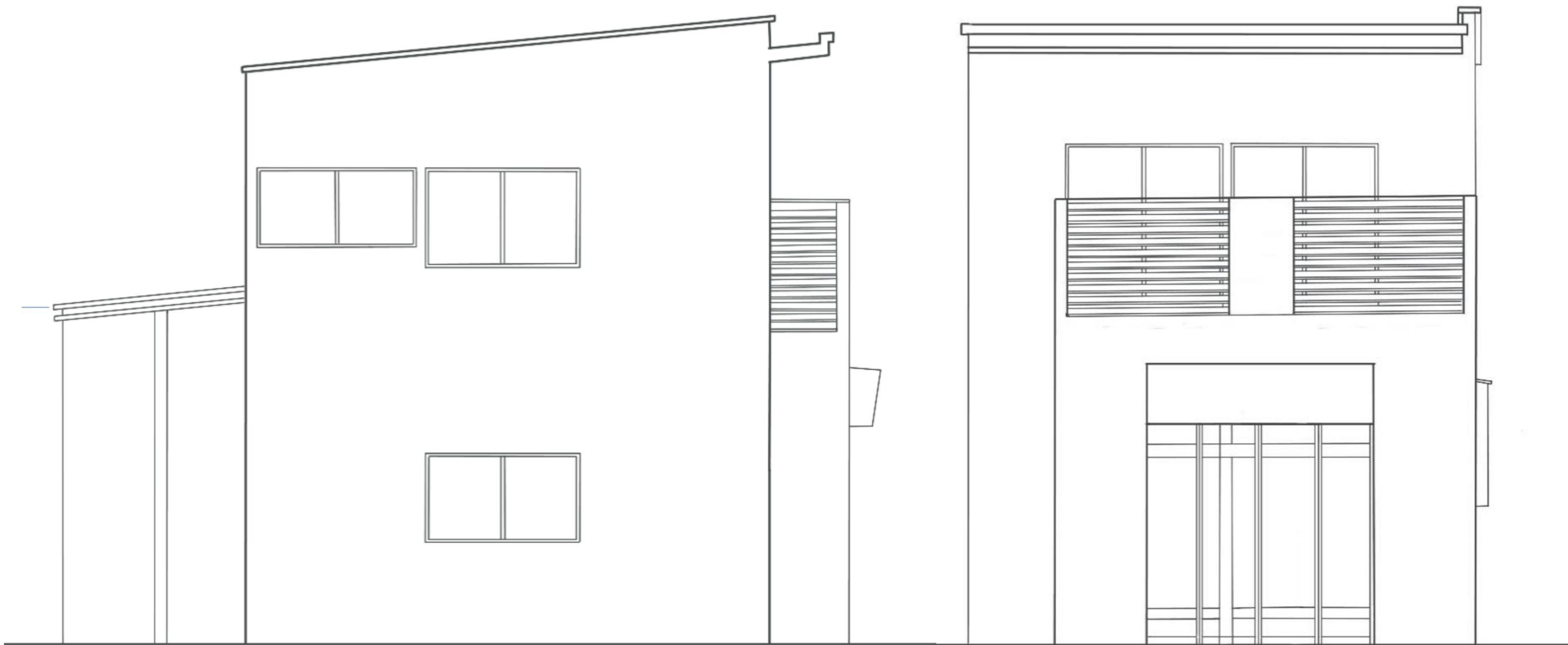
西断面図

南断面図

1/40 矩計図



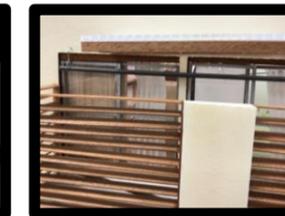
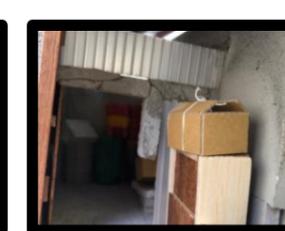
1/40立面图



0 1000 3000 5000 8000 (mm)

東立面图

北立面图



模型写真・パース



まとめ

違和感の元：街と人の生活の変化に伴って住宅が変わっていった跡

関山燃料店と街との関係：桑畑や、繊維工場の減少による需要の低下

また商店街の衰退に伴って人の流入が減り住人も離れていったため燃料が必要とされなくなっていた。周辺の燃料店は次々とお店をたたんでいく中、関山燃料店は規模を縮小して営業を続けた。次第にこの建物は燃料店というよりは住宅としての機能がメインとなっていた。

八王子という町が変化すると関山燃料店もともに変化していった。調査したことにより住宅の興味深いところだけではなく、同時に八王子の町の変遷が分かった。また現在の街並みがどのように形成され、町が発展していったのかも理解することができた。このことから関山燃料店は八王子を読み解くには欠かせない要素の一つではないかと感じた。